第４回北陸圏広域地方計画有識者懇談会　議事録

日時：令和５年３月 15 日(水) 13:30～16:00
場所：石川県文教会館　４階 大会議室(ｵﾝﾗｲﾝ併用)

１．開会

２．挨拶

［北陸地方整備局長］

・ 本日は年度末の大変お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げる。
・ この懇談会は、近年の社会情勢の大きな変化などを踏まえ、次期広域地方計画策定に向けて有識者の方々にそれぞれの専門分野からご意見をいただくことを目的として設置したものである。
・ 昨年８月に第１回懇談会を開催し、その後、「若者の流出」と「デジタルの活用」の２つのテーマについて分科会を設置し、掘り下げた議論をいただいた。これまで、数多くの有意義なご意見をいただくとともに、２つの分科会からの提言も取りまとめていただいた。
・ そして前回の１月 27 日の懇談会では、次期計画において北陸圏が目指すべき将来像についてご意見をいただいた。
・ 今回はこれまでのご意見を踏まえ、次期計画において北陸圏が目指す将来像をベースとして、広域地方計画の骨子案についてご意見をいただきたいと思う。
・ 最近の情勢をみると、国際情勢は様々な要因でまだまだ予断を許さない状況ではあるが、新型コロナ感染症の対策についてはマスク着用の考え方が示され、ウィズコロナを前提とした暮らしぶりが明らかになってきている。また、国際クルーズをはじめとする国内での国際交流が復調してきている。
・ 金沢では３月に国際クルーズの船が入った。今年は国内外含めて 40 隻くらいが入港する予定である。
・ また、新たなネットワークインフラとして、３月 19 日には中部縦貫自動車道の大野インターチェンジから勝原インターチェンジの間が開通する。能越自動車道、輪島道路においては、「のと里山空港インターチェンジ」から「のと三井インターチェンジ」までの間で今年中の開通を目指して事業を進めており、これらが観光や産業振興に大いに役立つことが期待されている。
・ この広域地方計画ではさらに先を見据えて北陸圏が目指すべき将来像とその実現に向けた計画をとりまとめたいと思っている。
・ これまで通り委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただく。

３．議事

［座長］

・ 本日の第 4 回有識者懇談会では、北陸圏広域地方計画の骨子案の取りまとめを行うということで、前回までいただいたご意見に対して事務局で内容の修正等を含めて資料をまとめている。それぞれ各委員の方からいただいたご意見がしっかりと反映されているか、あるいは前回言い忘れたところがないかも含めてご確認いただくようお願い申し上げる。

（１）新たな国土形成計画（全国計画）の検討状況・スケジュールについて

［国土政策局 広域地方政策課］

・ 資料 1-1、2 ページをご覧いただきたい。現在検討中の全国計画の骨子案の概要である。こちらは 3 月 7 日の国土審議会計画部会でお示ししたものである。

・ 全体を 3 部構成にしている。一番上に第一部として計画の基本的な方針を示している。新たな国土の将来ビジョン、左下は第二部で分野別施策の基本的方向、第三部として計画の効果的な推進、広域地方計画の策定推進という三部構成にしている。

・第一部は 4 章の構成にしている。そのうちの第 1 章が上のオレンジ色の箱の部分である。時代の重大な岐路に立つ国土と書いてあるが、国土を巡る課題認識について記載している。我が国が直面するリスクと構造的な変化を大きく 3 つの観点から載せている。左の箱が人口減少や少子高齢化、それから災害の激甚化、頻発化、さらには気候変動による危機である。真ん中の箱がコロナを経た暮らしや働き方の変化である。右の箱が世界情勢の変化、安全保障のリスクが高まっている、あるいは資源依存の問題などである。こういった我が国を巡る現状の課題認識を大きく 3 つの観点からまとめた。こうした課題を踏まえつつも乗り越えて未来に希望の持てる国土の将来ビジョンを示していくことが国土形成計画の役割だと考えている。

・ では、「どのような目標でどういった国を目指すのか」というのが、第一部の第 2 章の青い箱の部分である。目指す国土の姿というところで「新時代に地域力をつなぐ国土～列島を支える新たな地域マネジメントの構築～」というキーコンセプトを置かせていただいた。大きくは 3 つの観点がある。「デジタルとリアルの融合による活力ある国土づくり」をしていくということ。それから災害に負けない強靭な国を作っていくという「安全・安心な国土づくり」。それから「世界に誇る自然や文化を活かした個性豊かな国土づくり」をしていく。こういった 3 つの国土づくりをしていきたいと思っている。

・ 国土づくりをしていく上での 4 つの戦略的視点として、「民の力を最大限に発揮するため官民連携」をしていくこと、それから「デジタルの徹底的な活用」、「生活者や利用者の利便」の観点を大事にしていくこと、分野を横断的に取り組む「縦割りの打破」をしていく。こういった 4 つの観点を基に進めていく。

・ では、そういった国土をフィジカルな面でどのように構築していくかをその下、国土構造の基本構想「シームレスな拠点連結型国土」という文言を置いてある。具体的には国土全体にわたっての人口や機能をどう配置していくか、あるいは都市や地域の構造的な在り方をどう考えていくかということを書いている。左下の部分で「広域的な機能の分散と連結強化」と、その下に「生活圏の再構築」という言葉を書いている。広域的な観点でどうするかということと地域レベルで何をしていくかを分けている。広域的なというところで書いている内容は機能をうまく分散していくということとそれを連結していくということが大事だと考えている。中枢中核都市を核として広域的な圏域の発展と交流の連携を強化していく、それからリニア中央新幹線の開業によって三大都市圏が一体化していく、そしてそれが新たな交流圏域を生んでいく。ここでは「日本中央回廊」という言葉を仮称で置いているが、こういった圏域の形成で地方の活性化や国際競争力の強化を進めていく。広域レベルの取組みのほかに、地域のコミュニティレベルでは、地域生活圏を構築していくことや生活に身近な地域のコミュニティを作っていくといったことに取り組んでいきたいと考えている。ここまでが目標にあたる部分で

ある。

- 次に重点的に取り組む内容として、その下の緑色とオレンジ色の部分に示している。
- 緑色の部分が全国計画の第一部では 3 章で、オレンジ色の部分が 4 章である。ここに重点テーマを置いている。
- 緑色の部分では 4 つの重点テーマとして地域生活圏、産業の構造転換、グリーン国土の創造、人口減少下の国土の利用・管理というテーマを置いている。こういった 4 つのテーマを共通で下支えする取組みとしてその下のオレンジの部分である。国土基盤の高質化、防災・減災や強靭化や生活の質、経済活動を支えるためのインフラの質を高めていくということ。もう 1 つ、地域を支えるのはインフラだけではなく人の観点が大事であるため、地域を支える人材の確保・育成、若者や女性活躍、子育ての支援、関係人口、こういったテーマに取り組んでいこうとしている。ここまでが第 1 部である。繰り返しになるが、まず、現状認識したうえで目指す国土の目標を掲げてそれに向けて重点的に取り組むテーマを全部で 6 つ掲げている。
- 第二部以降は分野別の施策でどういったことを取り込んだかということである。地域の整備や産業振興、文化、観光、交通、様々な分野に関する施策の方向性を位置付ける。
- 第三部は全国計画をどのように効果的に進めるかということと各広域地方計画、圏域ブロックの中での計画で実行していくことも書かせていただいた。これが全国計画の骨子の全体像である。
- 続いて 3 ページをご覧いただきたい。ここからは 4 つの重点テーマについてご説明させていただく。このページ以降の資料は 2 月 3 日に行った国土審議会の計画部会の資料である。地域生活圏、産業の構造転換、グリーン国土、国土利用管理という 4 つのテーマを掲げているが、どれも重要である。さらに申し上げると相互に密接に関連しているテーマだと考えている。例えば、地域生活圏を形成するにあたって地場の産業の生産性を上げていく、あるいは地域には自然の資本があるのでそれを保全する、利用する観点、さらには人が住んでいくにあたって必要な国土の利用や管理という観点、そういったことと一体的に取り組む必要があると考えている。これから 4 つのテーマについて個別に説明するがこれらのテーマをうまく連携しながら国土全体の多様性や持続性を高めていきたいと考えている。
- まず 1 つ目として地域生活圏の形成だが、5 ページをご覧いただきたい。デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成として基本的な考え方を整理したページである。左側が地方の問題危機として我々は人口減少が大きいと考えている。東京等の都市部へ流出し人口が減ることで地域の生活サービス等の機能の維持が困難になり、担い手や人材が不足する。そうなると地域の仕事がなくなったり、生活の質の低下、活力の低下といった課題が生まれる。それにより地域から人が離れていってしまい、人口減少が起きるという悪循環が生じてしまっていることが一番大きな問題だと考えている。
- 我々は今回こういった問題に対してどう対応していくかというのが右側である。人口減少下でも持続可能で活力ある地域を作っていく、これも地域生活圏の形成の目標としている。その際にどのように取り組んでいくのかということが 2 つある。
- 1 つは「共の視点」からの地域経営ということで、地域を共につくる発想というものを掲げている。主体や事業、地域といった観点で複数の者が連携して取り組んでいくということである。
- もう 1 つがデジタルの徹底活用ということで、地域生活圏はリアルな空間ではあるがリアルな空間の質を高めていくためにデジタルの技術を使って補完していく。
- 具体的な取組みとしては 6 ページ、デジタルの観点では５Ｇや光ファイバーといったデジタルイン

フラを活用していく。それから、地域の交通の観点でも公共交通の再構築を進めていく。新たなモビリティということでは自動運転のサービス、あるいは物流ではドローンによる物の輸送に取り組んでいく。まちづくりの観点でも居心地がよく歩きたくなるまちづくりや、あるいは街づくりの分野でもＤＸの取組みを進めていくことなど。

- ７ページ、より人々の生活に密着している分野で医療や教育分野での遠隔技術を使った対応、あるいは関係人口にも関連してくるが、テレワークの普及に伴って転職なき移住や二地域居住が広がってきている。さらにその下、インフラメンテナンスでは様々なインフラの維持管理を効率化していく観点から多分野でのインフラのマネジメントをしていく仕組みを作っていく。こういった分野で取り組める分野は多いのではないだろうかと考えている。
- こういった地域生活圏を作っていくにあたっての考え方は 8 ページをご覧いただきたい。地域生活圏の形成に向けては今の時点でしっかり決まっているわけではないが、エリアについては固定的な圏域の発想にとらわれるのではなく官・民のパートナーシップの取組みが重層的に連なるものとして柔軟に捉えていくことが大事である。次に規模である。日常生活に不可欠なサービス水準を維持していく人口規模が必要である。生活や経済の実態に応じて対応していくことが大事である。
- ９ページは、先ほど「共の視点」ということで申し上げた「主体の連携」、「事業の連携」、「地域の連携」だが、地域生活圏というものを形成していくにあたって担い手というのが大事になってくると思っている。国から一律で押し付けるものでなく、地域の主体的な創意工夫によってボトムアップでやっていくことが大事だと思う。そういった意味での主体性というのが大事になってくるが、官だけではなく民間の力を活かしながらのパートナーシップでやっていくということ、公共性の高い分野に対して民間の事業者の参入を促進していくことに取り組んでいきたいと考えている。
- 具体的には 10、11 ページに資料をつけているが説明は割愛させていただく。
- 次に 12 ページ以降が 2 つ目に産業の構造転換のテーマである。13 ページをご覧いただきたい。2 つ目の重点テーマとして持続可能な産業への構造転換を置いているのは産業を取り巻く構造的な状況変化が大きいと認識していることにある。製造業が一番わかりやすい例だが、人口減少によって国内の需要が減っている。産業を支える労働力も不足している。それから、産業を立地する場所の災害のリスクの問題が大きくあると考えている。特に首都直下地震や南海トラフなどの巨大地震への対応が大きな課題である。それから、経済自体がグローバル化している中でＤＸ、ＧＸなどの大きな波も出てきており、競争が激化している。こういったことへの対応が大事だと考えている。地方でも地域産業を担う労働力の不足、あるいは中小企業の後継者の問題などが出ていると考えている。こういった課題に対応するため我が国の産業をどう構築していくかということで掲げているのが右側である。1 つは成長産業の分散立地の促進や大事な産業が集積しているコンビナートの強化再生ということ。地域の産業に関しては産業の稼ぐ力を高めていく取組みとして右下にあるようなイノベーションやスタートアップの創出、さらには地域産業を担う人への投資を進めていくということを掲げている。
- 次のページで成長産業の分散立地等の観点について説明しているが、特に今後、我が国を支えていく産業として半導体や蓄電池素材、バイオものづくり、船舶、こういったモノづくり産業というのがまだ我が国では力があると考えている。こういった産業は、経済安全保障の観点からもしっかり守っていく必要があると考えている。企業の立地戦略を踏まえながらとなるが、生産拠点の整備や強化に取り組んでいきたいと考えている。
- もう 1 つ、デジタル化を進めていくうえで大事になるのがＤＸを支えるデータセンターである。こ

ちらについても通信ネットワークの強靭化を図る観点から、都市部だけでなく地方への分散立地を図っていくということが大事かと考えている。

・エネルギー分野にも関連するが、今注目を集めているのが洋上風力発電である。カーボンニュートラルの実現のためにも洋上風力発電の取組みをしっかり進めていきたい。その下がコンビナートの関係である。様々な産業の集積の拠点になる臨海部のコンビナートについて、特に被災するリスクとの観点から強化再生を図る。また、もしそういった産業の設備が廃止縮小した場合の跡地の有効活用に取り組んでいきたいと思う。

・ 3 つ目のテーマとしてグリーン国土がある。17 ページをご覧いただきたい。先ほどカーボンニュートラルという観点にも触れたが、気候変動による影響が深刻化している。生物多様性に対する意識が高まっている現状がある。世界的な課題ではあるが日本としても取り組んでいかなければいけないということで右側にあるようにグリーン国土の創造というものを掲げさせてもらった。カーボンニュートラルの実現を図っていく、脱炭素化を進めていくことのほかに「30by30（サーティーバイサーティー)」をしっかりやっていく、生態系の保全再生、あるいはグリーンインフラの整備を進めていくことをやっていきたいと考えている。

・ 18、19 ページに具体的な取組みの方向性を掲げている。例えば上から二段目、まちづくり、交通、インフラ分野でのグリーン化ということで脱炭素化、省エネ化の取組みを進めていく。それから下から 2 つ目、森林資源の循環利用の活用ということで木材の利用拡大や木質バイオマスを使ったエネルギーの利用といったことを進めていく。

・ 19 ページでは国立公園の保護や里山里海という観点、さらにはグリーンインフラということで二酸化炭素の吸収源としてのインフラ整備をしていく。さらに観光や農泊といった観点で自然資本の利用をしていきたいと思っている。

・ 最後に 4 つ目のテーマ、人口減少下での国土利用・管理ということで、人口が減っていくと当然土地や家屋を管理していく担い手も減っていくことで、空き地問題、空き家問題、所有者不明土地問題といった課題を抱えている。国土交通省でも取り組んでいるが、国土形成計画の中でも国土の管理をどう進めていくか具体化し、その 1 つが国土の管理にあたってもデジタル技術をうまく使っていく。あるいは多様な主体の参画によって実現していくことなどを計画に盛り込んでいる。

・ ここまでが全国計画の 4 つの重点テーマの内容である。

・ 最後に資料 1-2 を簡単にご説明する。今、全国計画についての骨子を議論いただいているが、夏の閣議決定に向けて、引き続き国土審議会の計画部会の方で 4 月、5 月と議論いただく予定である。並行して国民の皆さんから意見をいただくパブリックコメントや都道府県政令市などの自治体の方からも意見聴取していく予定である。こうした国の議論も横目に見ながら広域地方計画の議論を進めていただければと思う。以上である。

【質問・意見等】

［座長］

・ 只今の説明について、委員の方々から意見、質問等あればお受けする。

［委員］

・ 資料 1-1 の説明で、国の方針に対して、都道府県、市町村がこの方針でいきたいという場合に、国が

進めていくのを都道府県や市町村が応援するのではなく、国民に近い都道府県や市町村が進めていくことに対して国が応援する流れの方がかなり実装に近いと思った。

・ 資料 1-2 の資料を見ると都道府県や政令市からの意見聴取だけだが、今後実装の時には国から押し付けるのではなく国が出した方針に合うことは応援していこうという流れになるのかどうかを聞きたい。

［国土政策局 広域地方政策課］

・ おっしゃる通りである。国の方で取り組むべき施策もあるが、都道府県や市町村の自発的、主体的な取組みを国の方が応援させていただくといった観点も大事だと思っている。

・ 広域地方計画は有識者の先生方にご議論いただいているが、この計画の策定にあたって北陸圏の県や市町村の皆さまにもご参加いただいているので、そこで北陸の地域の皆さまのご意見を伺っていくことも大事だと思っている。また国の方で主体的に進めていく施策についても都道府県や市町村の取組みをうまく支援していくようなことをやっていきたいと考えている。

［座長］

・ 他にいかがか。

［委員］

・ 14 ページについて単純な質問だが、成長分野のところで「船舶等」と書いてあるが、これは具体的にどういったものか教えていただきたい。

［国土政策局 広域地方政策課］

・ 具体的には造船業である。我が国の造船業というのは昭和の終わりの時代からだいぶ中国や韓国に押されているところではあるが経済安全保障といった観点では何か危機が起きたときに国内にものが入ってこないと困る。それは我が国のフラッグシップの船であるとともに、我が国で造られた船であれば国内の海運企業に使ってもらえるということもあるので、海運業と造船業をしっかり支えていくということが経済安全保障の観点からも重要だということで、主に造船に念頭に置きながらここに記載した。

［委員］

・ 前回の計画では船舶というのは出ていたのか。今回の計画から新たに加えたのか。

［国土政策局 広域地方政策課］

・ 8 年前の計画に造船や船舶というのは記載していたか把握していないが、目下の状況としては経済安全保障の観点から造船業、船舶の重要性が見直されているため、今回の計画ではしっかり書かせていただいた。

［委員］

・ 全国計画と広域地方計画との整合性に関する質問だが、全国計画について大変ご丁寧にご説明いただき共感する部分がたくさんあった。明確なフレーム、使われている文言、広域地方計画においても重視することが多いと感じながら拝聴していた。広域地方計画の方では全国計画で示されたフレームや文言がまだ十分に反映されていないかもしれないという感覚を持った。この計画が同時並行で進められている中で広域地方計画はどの程度全国計画のフレームや内容、文言等を踏まえていけばよいの

か教えていただきたい。

［国土政策局 広域地方政策課］

・ 北陸圏のご意向もあると思うが、一度、本省の方からお答えをさせていただく。広域地方計画というのは北陸圏だけでなく全国に８つの圏域ブロックで計画を作っているのでそれぞれの圏域で個性があってしかるべき、むしろ個性を発揮していただくことが大事だと思っている。一方で、全国計画で掲げた 8 つの重点テーマについては計画の中で何かしら取り組んでいただきたいというところもある。地域生活圏や産業の構造転換、グリーン国土利用等の私が説明した４つのテーマは各圏域の方での施策の中でも触れていただきたいと思っている。ただ、そこは各圏域で少しずつ濃淡や程度の差はあると思う。

・ 各圏域の骨子案をもらっていて、いろいろな圏域の骨子を横並びで見ているので、本省の方で北陸圏の骨子について気付いた点についてはフィードバックし、やり取りすることになる。

［委員］

・ 何点かあるが特に産業の構造転換のところに関しての意見である。

・ まず、１点目に「先端産業の分散立地」と書いてあるが、国土計画を研究していると、結局は地方で同じようなものを作り、到底、立地もできないような条件のところで工場を整備・誘致しているような例が見受けられた。当然、売れなければ空き区画になって残っている。したがって、「分散立地」というよりもむしろ「適正立地」というように、土地条件とか技術（者）の地域賦存等、生産条件が整った地域に配置するという表現に改めておいた方が良いのではと思う。

・ ２点目は農業は将来の食糧安全保障の問題につながってくるので、もう少し農業関連産業を重点化しておいた方が良いのではないかという感想を持った。

・ 3 点目に浮体式の洋上風力について日本でどの程度の産業的な自立可能性があるのか検証をしておく必要があるかもしれない。例えばナセルは日本ではほとんど作れない。値段の安いものになると中国と必ず価格競争が入っていく。土地条件でも深い海というのは限られている。ヨーロッパは大体水深 5m～15mの範囲でおさまっているので、日本でいえば電柱を立てる感覚である。マーケットの大きさを考えていくと、もう少し産業育成の視点も含めた検討も必要ではないだろうか。

・ 地域産業の稼ぐ力の向上のところは女性や障がいを抱えた方を考慮しつつ、これに働き方改革も加味して考えていくのが良いと思う。

・ 最後に地方の都市と農村を「生活・生産のユニット」（スイスモデル）として考えていく方法がある。普段は自然環境に恵まれた農村部から近隣の中小都市に通勤をして働ける環境を整える。例えばＤＸを駆使してそこで産業をたくさん作り出すことなどである。そういった施策も提案しておいてもいいのではないだろうか。

［座長］

・ ご意見として参考にしていただければと思う。

（２）次期・北陸圏広域地方計画の策定スケジュール（案）について

［事務局］

・ 「次期・北陸圏広域地方計画骨子策定スケジュール（案）」についてご説明する。お手元の、資料 2

をご覧いただきたい。

- 表の右側の欄が有識者懇談会である。
- 本日の第4回懇談会の後、骨子案を計画の策定主体である協議会に諮り、「計画の目標まで」を対象として骨子を決定することとしているが、今回の懇談会でいただいたご意見の反映や、本省で並行して検討されている全国計画との調整により、今後も何らかの方法で委員の皆様にご意見をお伺いすることもあるかと思う。その際は改めてご相談させていただくため、よろしくお願い申し上げる。
- また、その後も、「具体的な施策」の設定や「計画本文の中間整理」「最終的な計画本文の記載」など、この懇談会を何回か開催させていただく予定としているが、骨子決定後の具体的なスケジュールは今のところ未定のため、改めてご案内させていただく。
- 骨子策定スケジュールは以上である。

（３）次期・北陸圏広域地方計画の策定 骨子[案]について

[事務局]

- 資料3-1「次期・北陸圏　計画の骨子案策定にあたっての考え方」をご覧いただきたい。
- この資料は、前回の懇談会でも示しているため、要点と変更点をかいつまんで説明する。
- 一つ目のスライドは現行計画に対しての見直しの方針を表したものである。上から、社会情勢の変化や、国の新たな計画・施策を踏まえ、さらには現状の課題、第1回懇談会や分科会でいただいたご意見も踏まえたうえで、新たな計画の方針等を検討するものとした。
- 2ページ目をご覧いただきたい。こちらはSWOT分析として、左上から北陸圏の強み、弱み、機会、脅威、を具体に整理したもので、前回から変更はない。
- 3ページ目は、SWOT分析を基とした取組み検討の概念をお示ししたものである。
- 次の4ページから7ページ目までは、「若者の北陸圏からの流出」と「デジタルの活用」の二つの分科会からの提言である。
- 5ページ目をご覧いただきたい。「若者の北陸圏からの流出」の提言について見直したところを朱書きで示しているが、前回の懇談会では「就業・就農を検討している若者」としていたところを、ご意見を踏まえ「起業・就業」と具体的に表現した。
- 6、7ページは、変更はない。
- 次の8ページ目、「計画の体系図」と骨子公表の対象範囲を示した。広域地方計画の体系については、「計画の意義等」から記載し、続いて「現状・課題」、「将来像の設定」、そして目指すべき「目標」を設定するとされている。さらに、目標を達成するための主要な施策・プロジェクトを記載することとなる。
- この中で、今夏の骨子の策定、公表の対象範囲は全国で統一的に「目標まで」とされた。
- 9ページからは新たな計画の将来像の提案となる。
- 次の10ページ目をご覧いただきたい。前回の懇談会で次期計画の将来像について、「住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸」と提案させていただいたが、このキャッチコピー自体には特段の意見はなかったため、委員の皆さんから認めていただけたものと受け止めている。
- 次に11ページ目は、将来像の具体的な状態を示している。これについては前回の懇談会でいくつかご意見をいただいた。朱書きのとおり、「自分たちが住む地域に愛着が持てる。」「挑戦したい仕事があ

る。」「地域循環共生圏、脱炭素社会が実現される。」「北陸ファンやゆかりのある人など関係人口が拡大し、つながりが強くなる。」と、追記した。

- 次に 12 ページ目は、将来像に対しての目指すべき目標である。前回の懇談会では、四角の囲みの中の目標 1～4 のタイトルとサブタイトルのみをお示ししていたところだが、今回は、例えば目標 1 であれば①～④など、それぞれ分野毎に、さらに具体化して記載した。
- 次の 13 ページ目は目標 1 の「北陸圏での魅力ある暮らしの実現 ～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～」のうちの、「①北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現」について具体的に記載したものである。上から、「様々なライフステージにおいて北陸圏内での就業や暮らしを選択する若者、女性、子育て世代、シニア世代などが増加し、地域コミュニティが活性化」、「テレワークやオンライン会議等の普及により、効率的な時間の使い方ができるようになり、「自分時間」がつくれる暮らし方・働き方のできる地域が実現」、「北陸圏の企業、地域社会などでダイバーシティが推進され、人々がライフスタイルに応じた暮らし方･働き方のできる地域が実現」、「女性就業率の更なる向上や様々な機会･場面での女性の社会参加が拡大することで、女性が活躍し輝く地域が実現」、「時間的･経済的にゆとりがある子育て世代が増え、安心して子供を産み育てられる地域が実現」、「北陸圏で若者が就きたい･挑戦したい業種、職種の企業が増加し、優れた人材が北陸圏に定着」、「里山里海等の美しい田園風景など北陸圏の資源･魅力などを理解する若者が増え、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現」と記載している。
- 次に、14 ページ目は、目標 1 のうちの、「②都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現」、「③自然災害に強い暮らしの実現」、「④美しい豊かな自然環境の保全」について具体的に記載したものである。
- ②では、「北陸圏域内における公共交通等の利便性が確保・向上され、各都市内や都市間での流動が促進されることで、富山県、石川県、福井県が連携した都市機能等の相乗効果を発揮」、「人口減少下においても地域での生活サービスレベル等の低下が抑制されることで、暮らし続けられる地域が実現」、「歴史ある町並みや美しい景観等の保全のほか、交通事故の減少による安全な移動空間が確保され、北陸圏の優れた住環境を形成」、「里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人が増え、三大都市圏など他圏域との関係人口の拡大をきっかけに、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現」と記載している。
- ③では、「地震や風水害･土砂災害など、激甚化･頻発化するあらゆる自然災害に対するリスクが低減され、北陸圏において災害に強い安全・安心な暮らしを実現」、「短期間の集中的な大雪など北陸圏の特徴的な問題でもある雪害に対するリスクが軽減され、暮らし続けられる雪国を実現」と記載している。
- ④では、「立山･黒部や白山などの山岳地帯から身近な里山里海までの生態系や健全な水環境が保全されることで、北陸圏の美しく豊かな自然環境を維持･形成」、「水力や風力のポテンシャルのほか、水素等を活用した新エネルギーの導入や資源循環等により、北陸圏における脱炭素化を実現」と記載している。
- 次に、15 ページは、目標 2 の「競争力のある産業の育成 ～北陸における経済･生産の一層の活性化～」として、「①活力に満ちた農林水産業の形成」、「②競争力と魅力がある産業の形成・活性化」、「③新たな需要を取り込み地域産業の活性化」について具体的に記載している。①では、「農林水産業にお

ける生産性の維持･向上による食料の安定供給の実現」、「第一次産業への興味関心の高まりによる就業者の増加、農山漁村の活性化」、「北陸圏が有する優れた特産品や食文化に対する人気が高まり、地域のブランド力が向上」と記載している。

- ②では、「北陸圏において中核的な産業等の生産性が維持･向上するとともに、国際的にも競争力が高い産業が集積した地域の形成が実現」、「イノベーションの創出を生み出す新たな産業の創出が促進し、魅力的な産業が成長する地域が実現」、「経済効果の高い滞在型旅行の拠点である宿泊施設や観光施設のリノベーション、観光ＤＸの推進などにより観光産業の収益力を向上し、観光産業の生産性向上と観光の質の向上により、「稼げる地域」が実現」と記載している。
- ③では、「他圏域や海外などから北陸圏域内への本社機能･生産拠点等の移転が進むほか、新しい働き方等の普及によるサテライトオフィスやコワーキングスペースが増加し、地域産業が活性化」、「太平洋側からの本社機能･生産拠点等の移転により、太平洋側で発生が懸念される巨大災害に対するリスクが軽減され、国内企業等の安定的な経済活動を実現」、「北陸圏で開催される国際会議や展示会等が増加し、北陸圏を拠点とした国際的な交流が活発化」と記載している。
- 次に、16 ページは、目標 3 の「日本海側の中枢圏域の形成 ～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～」として、「①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成」について具体的に記載している。「高規格道路のミッシングリンクや幹線道路等のボトルネックが解消することで、信頼性が高く円滑な物流ネットワークの形成を実現」、「北陸圏域内の港湾･空港における取扱貨物量が増加し、日本海側のゲートウェイ機能を果たすことで北陸圏域内や隣接圏域などの国際競争力が強化」、「高速交通や圏域内の二次交通によるヒト・モノの流動が促進されることで、太平洋側圏域と連携した経済圏域の形成を実現」、「日本海側の防災拠点やネットワークの形成が促進されることで、太平洋側で発生が懸念される巨大災害の発生時においても、国全体で社会経済活動の維持及び迅速な復旧･復興を実現」、「北陸圏域内の港湾におけるエネルギー関連資源の取扱量が増加し、エネルギー受入･供給拠点としての役割が確立と記載している。
- 次に、17 ページは、目標 4 の「交流・関係人口の創出 ～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～」について、「①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化」、「②三大都市圏等との新たな交流」、「③様々な人とつながる北陸圏」について具体的に記載している。①では、「広域周遊を含む質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築、北陸圏の伝統産業や歴史･景観･食文化などの観光資源の磨き上げ、コンテンツの充実化等により国内交流が拡大」、「文化、自然、食、スポーツ等の分野で、伝統芸能等の特別な体験や自然を活用した体験コンテンツの高付加価値化や海外における北陸圏への誘客イベント等によりインバウンド観光が活性化」と記載している。
- ②では、「充実した広域交通により北陸圏域内の新幹線駅や空港の乗降客数が増加し、交通結節点やその周辺地域において三大都市圏や海外等との新たな交流を創出」と記載している。
- ③では、「里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人や北陸への思い入れのある人の拡大とつながりの強化」と記載している。以上が目標となる。
- 次に、18 ページ目からは、それぞれの目標に対して、施策の柱となる取組みの方向性を示したもので、前回の懇談会でも示している。
- 18 ページ、そして次の 19 ページは目標 1 に対しての取組みである。
- 20 ページは、前回懇談会から見直したところを朱書きしてある。
- （1）は、デジタルの活用は一つの有効な手段であるものの、それだけではないという意味も含めて

「デジタルの活用等」と表現した。

- （2）は、前回はものづくり産業に特化した表現としていたところを、さらに幅広の分野を含めてのイノベーションの創出や起業環境の醸成、さらに観光産業の生産性向上等も含めて見直した。
- （3）は、前回は「地理的条件を活かした」と表現していたところを、「北陸の特徴、北陸らしさ」を打ち出すという意味合いも込めて「三大都市圏に近接する強みを活かした」と表現した。
- 次に、ひとつ先の 22 ページをご覧いただきたい。こちらについては、前回、（1）（2）の取組みについては、いわゆる従来型の観光にとらわれているとのご意見を踏まえ、（3）に「様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大」という取組み項目を追加した。以上、資料 3-1 の説明である。
- 続いて、資料 3-2 は、先ほどの検討方針を踏まえて作成した次期計画の骨子案となる。こちらは公表の対象となる「目標まで」としている。
- 資料 3-3 をご覧いただきたい。こちらは、取組みの方向性も含めたものである。こちらの資料で骨子案全体も説明する。
- 1、2 ページは「計画の意義等」となる。
- 3 ページから第 1 章「現状と課題」となる。
- この骨子だが、章立ての次に項目タイトルがあり、その下の菱形マークが項目のサブタイトルになる。このサブタイトルに沿って、計画本文の内容を記載していくこととなる。
- また、四角囲みの中にそれぞれの項目のキーワードとなる指標や出来事、重要視すべき観点や取組み事項等を記載しており、これらから内容を記載していく。
- 5 ページ目をご覧いただきたい。こちらの朱書き箇所は、前回いただいたご意見を踏まえ、追記した項目である。こちらには、価値観の多様化の話、地域学習・地域課題に対する啓発についての意見を反映している。
- 10 ページ目をご覧いただきたい。こちらは、第 2 章「将来像」となる。
  将来像の設定とその位置づけについて、「北陸らしさ」の記述も含めて見直しした。
- 次の 11、12 ページは、先ほど紹介した「目標」の記載である。ここまでが骨子公表の対象となる。
- 13 ページ以降は、施策の柱となる目標 1 から 4 の「取組みの方向性」を示したものである。こちらも、前回いただいた意見を反映したところ、さらに「北陸らしさ」を表現したところ、について朱書きで示している。
- 以下、20 ページまであるが、説明は省略させていただく。
- 次に参考資料を紹介させていただく。
- 参考資料 1 は、先ほど本省から説明のあった「国土形成計画（全国計画）の骨子（案)」の全文である。
- 参考資料 2 は「全国計画の基本構成内容と北陸圏の骨子案の対応状況」を整理したものである。全国計画のキーコンセプト、キーワードについて、対応を確認している。
- 参考資料 3 は北陸の計画の中で、「北陸ならではの北陸独自の目標・取組み」について整理したものである。例を挙げると、「北陸新幹線を活かした連接型都市圏の形成」、「太平洋側の巨大災害リスクを軽減する役割」、「日本海側のゲートウェイ機能」、「田舎暮らしのニーズに応える移住促進の取組み」、「雪害、冬期間の物流の克服」などを独自の取組みとして整理した。
- 参考資料 4 は、前回の懇談会で委員の皆さんからいただいた意見と、その対応状況を示したもので

ある。それぞれご確認をお願い申し上げる。以上である。

【意見交換】

［事務局（代読）］

- 有識者懇談会 SWOT 分析では強みとして高い再生可能エネルギー導入ポテンシャルがある、脱炭素地域づくりだけでなく地域としてより多くの脱炭素電力を生産しカーボンニュートラル化の難しい都市部へ供給することで都市部の脱炭素化をサポートするだけでなく、地域経済の活性化につながるのではないか。
- 近年のエネルギーセキュリティの問題に対して自然エネルギーを利用した再エネは有効と考えられているが太陽電池モジュールの世界シェアは 75%が中国、日本は 0.9%であり、太陽光というエネルギー資源を確保しても発電設備を確保しなければセキュリティを高めることはできない。
- 国内インフラとしてポリシリコンからウェハー、セル、モジュール製造の国内誘致を進めてはどうか。
- カーボンニュートラル実現のためには現在の再エネ 18%を大幅に増やす必要があり、適正に管理された営農型太陽光発電や防災、景観に配慮した太陽光発電が有効である。
- また、草地性生物は絶滅の危機にある。耕作放棄地や荒廃人工林へ太陽光発電導入と草地復元の同時実施など生物多様性の保全と地球温暖化の防止に同時に貢献できる方法を考えてはどうか。以上である。

［座長］

- それではこれより意見交換に入りたいと思う。できるだけ多くの委員の方々からご意見頂戴したいと思う。できるだけ簡潔にご意見をお願いしたい。
- ご意見のある方は挙手をお願いしたい。それから、オンラインの方は挙手ボタンを押していただきたい。

［委員］

- 資料 3-1「次期北陸圏広域地方計画検討にあたっての考え方」の目標の表現について意見を述べたいと思う。
- まず 13 ページの北陸圏の魅力ある暮らしの実現というところで「ダイバーシティが推進され日々、人々がライフスタイルに応じた暮らし方、働き方のできる地域を実現」ということが真ん中ぐらいにある。ここにはどちらかというと女性の活躍や若者というワードがあるが、「副業で関わる人」のような文言も入れていただいた方がより具体的で良いと思った。
- もう 1 つ同じ項目で一番下に「里山に理解する若者が増えて」という文言があるが、若者が田舎に暮らしたいがそこに家がないという課題が多いと個人的に感じている。数千万円かけて改修しないと住めない家が多く残っているので、若者が気軽に住みたいと思ったときに住める家を確保するというのは項目として入れた方が良いのではないだろうか。
- 次に 15 ページの競争力のある産業の育成の②の 3 つ目の項目に観光業についての説明があるが、「稼げる地域」という表現だと収益性だけを求めた観光となり、違う方向に行ってしまうのではないかと表現を見て思った。どちらかというと、どの県にもあるものというより独自性の高いものや地元にお金が残る観光業、地域の豊かなまちづくりと両立するような観光というような表現も入れた方が良い

と思った。

［座長］

・ 3 点ほどいただいたので事務局の方で検討いただけたらと思う。

［委員］

・ 地域生活圏について、本省の説明資料 8 ページに「規模の柔軟性」「地域の実情に応じ、地域が主体的にデザイン」とあって、集積規模の目安が「1 時間圏内・人口 10 万人程度以上」と示されている。このような具体的な指標がある中で、「主体的に」というのが今回の北陸圏の中でそれに付言しているのは「デジタルを活用した地域生活圏の形成」のところに、例えば、北陸新幹線を活かした連接型都市圏の形成とある。この 10 万というものを意識するのかしないのかということも含めて、もう少し北陸圏としての地域生活圏に関しての主体的な考え方を付加した方が良いのではないか。
・ もし、ここで付言しているというところがあれば教えていただきたい。

［事務局］

・ 地域生活圏の考え方については全国計画でも議論中のところであるが、北陸圏の計画についても全国計画を踏まえた形で作っていきたいと思っている。まだ具体的なところは反映はできていない。

［委員］

・ 全国計画で、「地域力」という言葉が明確に示されている。他にも「地域マネジメント」「住民主体」「地域再生」等のキーワードが多くある。
・ 北陸圏の計画の中でどのように取り込めるかについて注目していた。これらについては、資料 3-1、12 ページの目標 1 の「①北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方･働き方の実現」で扱おうとしていると思うが、「地域の人材育成」、「地域マネジメント」、「地域住民の主体性に磨きをかけていく」といった視点は、目標 1 の中で項目を分けて設定した方が良い。
・ 参考資料 2 の 2 ページ目で、新たな国土形成計画（全国計画）の基本構成の項目の「生活圏の再構築」の中の「生活に身近な地域コミュニティの再生」は、北陸圏の計画では「（2）デジタルを活用した「地域生活圏」の形成」、デジタルの分野で対応する形になっている。地域コミュニティの再生は、極めてアナログな世界であり、別項目で対応する方が良いと思う。また、新たな国土形成計画（全国計画）の基本構成の項目の「地域を支える人材の確保・育成」の「多様な主体の参加と連携」にも大きく関わりがあると思う。

［委員］

・ 地域生活圏に関しては、各新幹線駅を中心とした地域をそれぞれ一つずつの地域生活圏として考えると、能登半島を除き、北陸のほとんどの地域はこれらの地域生活圏でカバーされるはずである。このような形で、地域生活圏を考えると良いと思う。
・ 全国計画の骨子案の「国土構造の基本構想」の中で「中枢中核都市等を核とした広域圏の自立的発展と広域圏間の交流・連携の強化」とある。他の多くの広域圏は、中枢中核都市を核として圏域を作ることが考えやすいが、北陸圏の場合は、「中枢中核都市を核として」と表現することは適切でないと思う。ここでは、北陸の特徴である「連接型都市圏」を、「核とした」より「軸とした」という表現を計

画の中に盛り込むと良い。全国計画の言い回しを北陸圏の計画に適応させると、「連接型都市圏を軸とした広域圏の自立的な発展」という表現となる。

- もう1点、産業の受け皿の話で、北陸では具体的にどのような産業の受け皿になり得るかについて、計画の中で打ち出せると良い。例えば、データセンターというのは可能性があると感じた。三大都市圏から近いということは、通信速度やバックアップ機能等を考えたときに、北陸圏に優位性があるものの1つだと思う。

［座長］

- 北陸新幹線の駅は、富山県に3つ、石川県に3つ、福井県に4つで合計10駅である。それぞれの駅を中心として10～50万人程度の都市が連接していることは北陸の特徴だと私も思っている。

［委員］

- 地域生活圏の話について、人口減少下の国土管理の名の下に、土地利用の転換についても書き込むと良いと思う。現在、道路の交通量が減少していて、道路の廃止、計画の中止を議論している自治体がある。今後人口が減少し道路管理においても、縮小しながら充実していく「縮充」の考え方で、道路ネットワークの見直しが必要となると思う。道路の一部を公園のような空間として利用する試みを行っている自治体もあり、計画に土地利用の転換についての視点もあると良い。

［委員］

- 全国計画は私も参加しているのだが、その中でかなり重要なものに4つの重点テーマがある。自分はそれら4つのオーバーラップと統合的なアプローチが重要だと提案している。統合的なアプローチを実現するためには縦割りを廃する形にしないといけない。これは資料の新たな地域マネジメントの構築という言葉が赤字で出ているが、そのマネジメントの重要な部分。オーバーラップを進めないと4つの重点テーマが実際には実現できないと考えられる。例えば、グリーン国土や自然資本の保全・再生を実現するためにはリソースが流入する必要がある。単独ではリソースがその目的のために流入する構造にならないので、リソースを流入させるためには他の重点テーマとのオーバーラップが必要となる。世界的にみれば都市と自然資本という交差領域は注目されているイシューである。そういったものを作り出そうということである。
- 先ほど委員から話があったが、そういった観点でここにある地域マネジメント、新しい地域のマネジメントの仕組みの導入を柱として立ててはどうかと考える。
- それから、各論について。全体としてスライドと広域計画の骨子と2つあって、広域地方計画の骨子の方は北陸らしさがある程度書いてあるのだが、スライドはそういった点があまりない。一目で北陸の計画だとわかるような北陸らしい重点をもう少し打ち出した方が良いのではないかと思った。
- 産業に関する部分だが、目標に「競争力のある産業の育成、北陸における経済・生産の一層の活性化」とあるがこれもあまりにも見出しが一般的すぎるのではないだろうか。私は「価値を生み出す力の向上と新たな需要の取り込み」のようにしたらどうかと思った。
- 先ほど委員からの話にあった観光についても稼げるというのも悪くはないと思うが、広く捉えると社会的な価値も含めた新たな価値創出というのを打ち出しても良いと思う。
- 今、社会で重要になっているのは量的な拡大よりも人々や世界にとっても社会的な価値も含めた価値創出の拡大である。北陸らしさを活かしてそういったものを強化すると良いのではないだろうか。

・ それから、自然資本のところだが、現在は自然の維持保全から進んでリジェネラティブ、再生を含めた議論へと世界的には進化してきていると思う。ここは北陸が強みを持つ部分なので、世界の議論を踏まえてリジェネラティブ、再生など進んだ議論の用語を取り入れてはどうかと思う。

［委員］

・ 私からは次期広域地方計画の検討の内容について少し述べさせていただく。スライドで言う資料 3-1 の 13 から 16 ページになる。
・ まず、15 枚目のスライドの目標 2 で競争力ある産業の育成の②の 2 つ目の項目で、「イノベーションの創出を生み出す新たな産業の創出が促進」と、創出が 2 回重なっている。よく読むとイノベーションの創出を生み出すとなっているので、最初の創出はなくても通じるかと思う。「イノベーションを生み出す新たな産業の創出」で通じるのではないかと思った。ここは文言の問題だけである。
・ 次に目標 3 について中身に触れたい。①の 2 つ目、「北陸圏域内の港湾・空港における取扱貨物量を増加し」となっているが駅はどうするのだろうか。というのは港湾・空港は大事だが脱炭素化という視点で見ると貨物の取扱量に関しては脱炭素化を目指すのであれば、圧倒的に駅の方が有利である。ここに駅を出さなかった理由があれば教えていただきたい。むしろ鉄道輸送を強化すべきだと思っている。
・ 次に質問である。同じ目標 3 の最後の項目で言っているエネルギー関連資源の取扱量が増加するというのは何を意味されているのかわからない。何も考えずに読むと化石エネルギーの輸入・輸出のようにも読める。おそらく違うのだろうと思うが、この表現がもう少し具体的になるようにしていただけると良いと思う。もし仮に、エネルギーというのが石油・石炭のようなものをイメージしているのであれば時間スケールがあると思う。2030 年までなら良いと思うが、その後さらに再エネ化を進める時にどういったものを想像すればいいのかわかりにくい。ここの言葉を少し補足していただきたい。
・ もう 1 点、13 枚目に戻っていただきたい。こちらは一度議論したので蒸し返してしまったら申し訳ない。目標 1 の①「北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける」となっていて少し回りくどい。確かに私も北陸圏に住んでいて北陸圏は暮らしやすいと思っているが、人によっては、北陸圏は雪が降るため暮らしにくいと思っているかもしれない。なので、もう少し簡単に「北陸圏の暮らしに磨きをかける」というような表現でも良いのではないかと思った。検討いただきたい。
・ 目標 1 から 4 については先ほど委員からも話があったように北陸圏でなくても他の地域でも当てはまる表現が多いという指摘は前にもさせていただいた記憶がある。それに対して詳細な目標を追加していただいていてかなり具体的になったという印象を私は持った。

［座長］

・ それでは事務局、先ほどのエネルギーのところご回答いただけるだろうか。

［事務局］

・ ここでイメージしているのは今後の脱炭素のエネルギー源とみられる水素や燃料アンモニアが主である。つなぎとしてあるとするならばＬＮＧかと思っている。ご指摘の通り言葉が足りなくて誤解を招くかもしれない。
・ 貨物取扱量の話については、16 ページの高速交通の中に道路と新幹線等が両方含まれている意味で書いているが、ここも言葉足らずかもしれないので検討させていただく。

［委員］

・ 今、資料 3-1 の 13 ページとそれに対応する資料 3-3 の 11 ページのところだが、①の暮らしやすさについては全く同意見である。

・ そのあと 1 点に絞って申し上げると女性活躍というのが国の方に入っているので触れざるを得ないというのは理解できる。しかし、女性就業率のさらなる向上や女性の社会参加というのは違和感がある。北陸は共働き率が高いのだから、女性就業率自体は他の地域よりも高い。北陸圏の特徴を出すのであれば就業率の向上や社会参加の拡大という言葉では他と全く同じになってしまい意味がない。テレワークのことでも出てくるが男性の正規雇用が多く女性の就業率が高いと言っても非正規雇用が多いのが北陸は特に就業率が高いということもあって目立つ状態である。テレワークやオンライン会議等の普及によりとあるが、安定した形で雇用契約を結んだ状態で社員としてテレワークをできる人達、雇用型テレワークは特に男性に偏る傾向にある。そうすると効率的な時間の使い方ができるようになり自分時間が作れるというのは、男性ばかりではないかという読み方をすることもできる。

・ その上で若者、女性、子育て世代、シニア世代などが増加し、地域コミュニティが活性化というのも若者や女性に地域コミュニティを担わせて他は関係ないのかという見方もできる。逆にここには入ってこない若者ではない男性の方々は地域コミュニティには必要とされていないのかというように捉えられる可能性もあると思う。

・ それと同じ関係で、下から 3 つ目、時間的、経済的ゆとりがある子育て世代が増え安心して子供を産み育てられる地域が実現、これには男性も同じように育てるというところに関わる必要があり、実際にそうでなければ女性は産んで働いて育てて家のこともして、すべてやらせるのか。それで実際、女性活躍と言っているけれど活躍ではなく働かせすぎだという意見もある。北陸圏というのはすでに就業率が高い。けれど、男女格差も非常に高いということを北陸圏の問題として捉えて書き方を考えるべきだと思う。女性の社会参加という言い方が、十分に参加している部分がある。ここで言う女性参加とは何なのか。先ほども申し上げた通り、働くということをさらに今のものに追加するのか。人間なのでできることは 24 時間の中で限られる。これもあれもというような捉えられる書き方をしない方が良いのではないだろうか。

［座長］

・ 事務局で表現を検討いただくということでよろしいだろうか。

［委員］

・ 厳しい言い方になったかもしれない。

・ 要するに就業率はもう高く、参加をしているので、そうではなく北陸圏はそのさらに先を目指すという書き方にした方が北陸圏として特徴を出すことができるということを申し上げたかった。

［座長］

・ 理解できた。事務局の方も良い表現ができればと思う。

［委員］

・ 全国計画の骨子案の資料 1-1 は大変良く書き込まれていると思う。しかし、一方で、構造が多重化されているため、理解するのに骨が折れる。これを徹底的に読み込んで、北陸圏の計画と比較すると良

い。

- 全国計画は危機感を強くもって作られており、今のままではこの国は立ち行かないということを明らかにしている計画である。その危機をバネにして新しい未来を作っていくというメッセージが込められていると思う。北陸圏においては、全国計画に則って作られているものの、新しい時代で、どのようにして北陸らしさを作っていくかをもう少し強く打ち出すことができると良い。
- 北陸圏では、都市圏の連接、地域生活圏の形成については、実現できそうな雰囲気を感じ取れる。しかし、一方で、既存の集落をどうやって維持していくか、既存の集落をネットワーク化した小さな拠点づくりをしていくことについては書き込みが不十分と感じた。全国計画では、都道府県を超えた広域ブロックの話と、市町村を超えた地域生活圏の話と、小さな拠点の話がある。それらをうまくコーディネートするような仕組みが必要で、その仕組みをどのように作っていくかについて、もう少し検討すると良い。コーディネートするためには、それをリードする人・組織・場作りが必要で、これを具体化しないと、実際に実現するのは難しい。
- 北陸圏が国内外で地域間競争を勝ち抜くことを踏まえ、日本海に面して日本の中心に位置しているという点は地政学に圧倒的な強み･魅力であると思う。北陸圏の範囲に対する考え方は人によって異なるため､北陸 3 県に捉われずに､新潟県や隣接県との連携を推進していくことが重要であると思う。
- 国土強靭化について、過去の南海トラフ地震の発生前後に、北陸で直下型地震が起きている場合が多い。前回の南海トラフ地震の時は、その発生前後に北但馬地震、北丹後地震、鳥取地震、福井地震が起きている。このことから、近年、発生が懸念されている南海トラフ地震の前後に、北陸で地震が発生するリスクが高いと考えられる。この状況を踏まえ、現在の北陸圏の住宅の耐震化状況を見ると、2020 年に発表されている住宅の耐震化に関するランキングでは、富山が 43 位、石川が 44 位、福井 34 位と、耐震化はあまり進んでいない。これらの古い住宅を適切に管理していかないと、積雪時に地震が発生した場合､被害状況が大きくなりかねない｡可能ならば､このことを住民の方々へ注意を促し、住民・民間目線での努力を促すようなことを計画の中で書いても良い。

［委員］

- 全国計画と北陸圏の計画の連携を考えたときに、北陸という地域が、他の圏域と比べて、どのような特徴があって、何を活かすべきか、特に課題となることは何か、地域ならではの問題等、それらをまとめたスライドをどこかに一枚、明示するような資料の構成にすると良いと思った。
- 人口減少が進んでおり、財政的にも厳しい状況下で、すべての課題に取り組むことは難しいと思う。何か対策を講じるときに取捨選択をせざるを得ない状況にあると思う。問題を先送りにすると、後の世代にしわ寄せがいくだけなので、「何でも取り組む」というニュアンスではない書き方をしていく方が良い。
- 資料の構成について、目標の次に、計画を作るにあたっての方針、目標の背景、計画を作るうえでポイントとなる考え方等について確認する目的でのスライドを追加すると理解しやすいと思った。
- 資料 3-1、18 ページ目について、限られた予算の中でインフラの老朽化対策や住みやすい環境をどのように維持していくかなどが目標の小項目から見えてこない。参考資料 2 を見ると、「（2）デジタルを活用した「地域生活圏」の形成」に、インフラ対策や生活環境の維持向上に関する内容が包括されているが、目標として言葉がはっきり見えないと、あらゆること全てに対してデジタルを使って解決するというような印象を持った。デジタルを使うだけでは解決できないことや、縮小する社会にど

う対応していくかというニュアンスが見えない計画は、将来のことを考えると少し不安がある。細かい具体的な施策案について、これまでに検討されていると思うが、今回公表される目標までの範囲で絵として見えない点が惜しいと思った。

［座長］

・ おそらく事務局はSWOT分析によって、北陸の特徴として強み、弱みを明確にしたというスタンスであると理解している。

［委員］

・ 北陸らしさをもう少し見えるように書き方を工夫すると良いと思った。
・ 北陸ではこのような具体的な問題があるから、これに対応してこの施策が入ってきているようなことが伝わる書き方の工夫が必要だと思う。

［座長］

・ この点について、事務局の方でご検討いただきたいと思う。

［委員］

・ これから議論するのだろうが、生活圏の空間的イメージをしっかり位置付けた方が良いと感じた。10万人の圏域がどこなのかイメージできない。小さな拠点と 10 万人程度の地域生活圏の中間に位置付けられるものはあるか、空間的位置づけについて、今後もう少し検討が必要だと感じた。
・ 全国計画について、地方に対して強い危機感を持って作られていると感じ、直面する課題に対して新しい地域運営とデジタルの徹底活用で対応していくとあり、このとおりだと感じている。一方で、実現化するためには、課題が多くあると感じている。例えば、セーフティネットの視点などがある。今後、この計画を自治体毎に落とし込んだ時にどのような行動計画で行っていくべきか考える必要があると感じた。

［委員］

・ 意見が2つある。1つ目は、若者の圏外流出への提言の方向性が素晴らしいと感じた。私自身、富山県南砺市の井波という場所で主に起業家誘致などのまちづくりを3年前から行っており、3年間で47件の空き家が埋まった。現在、6件、起業家によって事業がスタートしている。
・ これらの活動がどうしてできたかというと、この提言通りであったと感じた。
・ 起業したい若者はどこに拠点置けばよいかわからないという状況を、私が所属している団体が中間組織として関わった。空いている土地についての相談や、特産品の農家を紹介したりなどの活動を行い、中間組織が動いただけで、3年間で47件の空き家が埋まった。雪国の助け合いのカルチャーがあったからこそできた企業誘致、若者圏外流出の防止であったと思うので、他の地域でもこのような拠点ができていくと、その周辺が小さくも豊かになっていくと、3 年間ふるさとの南砺市井波にコミットして見えた景色であるので、非常に素晴らしい提言だと思った。
・ もう 1 つは、資料 3-1、13 ページについてである。「女性就業率の更なる向上や様々な機会･場面での女性の社会参加が拡大」に関して、私の希望であるが、30年以内に女性の役員、リーダーを40%にすることを目標としてほしい。北陸三県の女性の仕事時間は全国でも上位に入る。正社員雇用は多いが、リーダーが本当にいない。北陸の女性は、平社員が多く、家庭も担っている女性が多い。親の立

場から言うと、娘には東京など女性のリーダーがいる地域で、働きやすい場所で仕事をして欲しいと強く思っている。まちづくりの環境でもほとんど男性である。可能ならば、北陸の女性就業率は既に高いので、女性の就業率ではなく、女性の役員、リーダー層の創出を計画の中に入れていただきたい。これらが次世代のダイバーシティの推進に寄与するものと考えられる。

［委員］

・ データセンターの設置について、北陸は他圏域と比較すると地震が少ないので、バックアップ機能という面で適している。実際に、国内外の企業からデータセンターのニーズはあると聞いている。
・ 北陸圏の計画の中で、伝統工芸品について少し触れているが、北陸特有の文化について、有形・無形や文化の保全の観点を加えると良いと思った。
・ 北陸圏全体のリデザインもそうだが、各県や市町村レベルでのリデザインもしていかないといけない。中山間地域にある町などは、限界集落となる可能性が高いため、これらの人たちのサービスを維持しながら、どう縮小していくかについて、もう少ししっかりとデザインした方が良い。
・ 北陸は、雪が降るが、融ける、凍る、という気象の特徴がある。これに関して、北陸は名水が多く、水資源が豊富であることについて、国土資源や観光資源の面から北陸の特徴として捉えることできる点だと思う。
・ 農業の担い手、高収益の作物への転換など、農業が儲かる、稼げるような施策もいろいろな場所で取り組んでいるため、計画にもう少し書き込んでも良いと思った。

［委員］

・ 意見が 2 つある。
・ 1 つ目は、目標の中でシニア世代についての話が、読み取れなかった。高齢化が進む中で、重要なテーマの 1 つだと思うので、計画の細かい項目に書かれているのであれば目立たせる必要があると感じた。
・ 2 つ目は、目標について全体的に「〇〇をすることで■■を実現する」という書き方となっている点がとても良いと思った。一方で、見直すと、「〇〇をする」という部分が目標となっている箇所がいくつかあるので、最終的に確認が必要と感じた。

［座長］

・ 限られた時間の中で各委員から貴重なご意見をいただき感謝申し上げる。
・ 前回お願いをして事務局には参考資料 2 をまとめていただいた。この資料では全国計画と北陸圏広域地方計画の対応表がまとめられている。これを読み込めば、どこが対応していて、どこが足りないのかがある程度わかる。ただ、もう少しメリハリのあるように書いていただけるとわかりやすいと思った。
・ 北陸らしさについては参考資料 3 のところで、ご意見が出ているような中枢的な都市がない、中核都市が横に連なっている連接型都市になっているというところと、山と海と街が比較的近いというのが北陸の特徴でもある。そこに雪が降るという特性も書いてある。
・ その意味では私はしっかり書かれていると思っていた。各委員からはきっちりと読まれていて齟齬

があるようなところをご指摘いただいたと思った。

・ その中で目標のところまではこれで良いのだろうが、この後どのように実現していくかと施策に落とし込むときに必要になってくるのがハードとソフトの話である。実行するのは人なので、人を如何に作っていくのか、個人では難しいので、組織化したり、その人たちが働く場づくりをすることが重要になってくる。そのためにどのような枠組みを考えていくのかが一番大事だと思っている。

・ ハードとソフトについて、５Ｇをうまく使ってつなぐとよく言っているが、現実問題スタートしたばかりで実際に５Ｇの能力が生かされているかというと使ってみるとまだまだ５Ｇまで行っているか行っていないかの入り口の段階である。なぜかというと基地局がまだ足りていない。ネットで調べると東京とか大阪にはすごくたくさんアンテナが立っているが北陸はほとんど立っていない。そういった意味では民間企業にだけ任せて大丈夫なのか。今はほとんど民間しかアンテナを立てていないが行政が行政用に光ファイバーを引いたように行政用にアンテナを立てても良いのではないのかというようなことを素人ながらに思う。今までの形態の基地局だと狭いと言いながらある程度エリアがカバーできたのが５Ｇになると本当に狭いエリアしか 1 本の基地局ではカバーしきれないという話なので、そういう意味ではもっと立てないといけないというのが課題だと聞いている。民間もお金がなくて大変だと聞いている。そういうところもどのように官民連携で役割分担していくのか、あるいは官がどのように民間事業に関わっていくのかということはあまり書いていない。何らかの形で北陸ならではの切り込み方がうまく書ければ良いと思った。

４．その他

［事務局］

・ 今後の骨子案のとりまとめについて、本日委員の皆様からの意見を骨子案に反映させ、委員の皆様には何らか方法で確認する予定である。そして最終的な骨子案のとりまとめは座長に一任する形でお願いしたい。

［座長］

・ 委員の方々、よろしいでしょうか。

（委員承認）

・ それでは、今後の骨子案の取りまとめについては、事務局からの提案どおりに進めることとする。

［事務局］

・ 委員に諮った結果、本日の懇談会資料は公開する。

・ 委員に諮った結果、議事録は内容確認後、公開する。

５．閉会

［北陸信越運輸局長］

・ 年度末の大変お忙しい中、委員の皆様方には活発な議論にご参加いただき心から感謝申し上げる。

・ この北陸圏広域地方計画有識者懇談会は昨年 8 月の第 1 回から本日の第 4 回まで次期全国計画案と並行した形で様々なご議論をいただいた。本日も多岐にわたる、いろいろな視点からのご指摘を頂戴した。事務局から先ほども説明があったが、この後、私どもで本日いただいたご意見、コメント等踏

まえて改めて骨子案を作成させていただき、そして皆様からご意見を頂いたうえで最終的には座長にご確認をいただくという形で進めさせていただきたい。

- また、先ほど事務局から説明があったが、今回、取組みの方向性という表現をさせていただいているところについては、公表する骨子案には含まれないということは全国の統一的な扱いとして決められているところであるが、そうは言っても、当然、その後に主要な施策を計画に入れ込む必要があるため、主要な施策については来年度以降、改めて皆様方とご議論をお願いしたいと思っている。
- 私ども運輸局の関係で申し上げると、まずは北陸新幹線の敦賀延伸が来年に向けて工事が進められているところである。これによって北陸三県が概ね新幹線で一時間以内でつながり、大きく人の流れが変わってくる。特に関西からの交流人口が増えてくるのではないかと期待されている。
- 一方で、地域公共交通全体を見ると人口減少やコロナによる社会生活様式の変化に伴い非常に厳しい状況がある。
- 先ほど本省からも説明があったが、今国会に地域公共交通活性化再生法の一部を改正する法律案を提出をさせていただいており、大臣からも今年の 1 月の会見において「地域公共交通の再構築元年」いうことで、この先地域の足をどう守っていくのかといったところも大きな論点になると考えているところである。
- また、観光についても現在、次期の観光立国推進基本計画が議論されており、より質の高いところに重点を当てた施策をしっかりと作っていこうと今年度内の閣議決定を目指して現在作業が進められている。観光については単なる観光業界だけでなく地域の皆さま方、さらにはレストランをはじめとした地域の産業に大きな影響があると思っている。しっかり支援したいと思っている。
- 特に北陸地域は日本の三霊山と言われている白山、立山の 2 つがある。ここで生まれた自然に関心を持っている。以前、アップルのスティーブ・ジョブズ氏も訪問していたし、石川県には松任谷由実さんも関心を持っており、駅の音楽も松任谷由実さんが作るといった話もある。文化や歴史等の関心のある方にとって響くものがあるのだといったことも議論をしながら、この広域地方計画に盛り込んでいければと思っている。
- 今後さらに作業が続くが引き続き皆様のご協力を賜りながら良い計画を作っていきたいと思っている。長時間にわたるこの会議に参加いただき感謝申し上げる。

－ 以　上 －